

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後児童デイサービスセンターらいず		
○保護者評価実施期間	2025年11月22日		～ 2025年12月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	2025年11月21日		～ 2025年12月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムは内容をチームで話し合い、様々な要素を踏まえた内容とし、固定化しないように意識している。	曜日によって内容が重ならないよう、日々の活動担当を全職員に振り分けることで、新しいアイデアなども取り入れた内容にしている。内容は前月末に全保護者に通知している。また、定期的に月ごとに担当職員を決め、小グループ遊びを企画し、バラエティーに富んだ内容を実施している。	個別支援計画に沿った専門的な視点からの活動プログラムの導入を検討していく。
2	活動スペースでは視覚的な情報を取り入れ、分かりやすい表現でこどもに伝えられるような掲示をしている。	グループ活動などでは、切り替えや集中しやすいように別棟を始め、プレイルーム以外の複数の部屋を活用している。また、注意喚起のポスターなどには絵、写真を入れて掲示している。時計には時間毎に色違いのキャラクターを付け、時間が伝わりやすい工夫をしている。	構造化が必要なこどもには、それぞれの特性に合わせた専門的な視点から個別の視覚的、聴覚的な情報を提供していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどものニーズの聞き取りが不十分だと感じる。	個別支援計画の作成については、保護者の意向が強く反映されているものになっている傾向にある。	意思表示が出来るこどもには、モニタリング会議前に本人に支援目標の振り返りや思いなどを聞く機会を作る。また、こどもが日頃から発している言葉を聞き逃さず、意向をチャッチする姿勢を今以上に意識する。
2	地域住民や関係機関との交流の機会が少ない。	事業所が地域の中で支えられているという意識が希薄になっている。	日頃から地域住民の方への挨拶を徹底する。また、地域住民や関係機関の方に事業所に来てもらえるような企画を検討する。
3			

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		放課後児童デイサービスセンターらいず				公表日	2026年 3月 2日	
						利用 児童数	44 (40家族)	
						回収数	35	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	34	1			・現状のスペースを有効利用できるような取組をしていく。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	22	8	2	3	・日によって、人員がいないと断られたことがある。 ・臨時職員や無資格でもできる補助のスタッフがいた方がいいと思う。 ・職員さんが大変そうだなと思う。	・在籍する職員で、利用希望に応えられるように法令順守の上、勤務シフトを検討し対応していく。 ・職員の欠勤などで基準配置が満たせない場合はには、保護者の方に協力を仰ぐ。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	2		1		・視覚的な情報を使った掲示を行い、障害特性に応じた対応をしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	34	1			・ウイルス感染が流行している時の感染対策が気になる。	・常時、除菌液の散布をしており、また感染症時期には、定期的な換気と手指消毒の慣行、職員のマスク着用を徹底している。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	33	2			・こどもの特性などを考慮した支援計画に基づいた支援をするように意識している。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	32	1		2	・5領域に基づいた支援プログラムに沿って、創意工夫をした支援を行っている。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	34			1	・日頃から聞いているこどもの声と、半期ごとの保護者面談で聞き取るニーズを踏まえて、個別支援計画を作成している。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	34	1			・個別支援計画はガイドラインに沿った項目ごとに必要な支援内容を示している。	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34	1			・個別支援計画の内容を職員間で共有し、内容を意識した支援に努めている。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	32	2		1	・月間のプログラムの立案の際には、同じ曜日でも内容が被らないように意識している。	
保 護 者 へ の 説 明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	14	6	4	11	・地域との交流に出て行くことはあまり聞かない。	・地域の図書館や児童館を利用し、地域のこどもと交流している。今後は事業所が主催する交流を目的とした活動の機会を検討していく。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	35				・利用開始時に個別に説明の機会を設けている。	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	34	1			・半期ごとの保護者面談の際に説明を行っている。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	32	2		1	・テーマを設定して保護者研修会、意見交換会を実施している。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	34			1	・気付いた事があれば、送迎時に直接伝えたり、LINEを通じて情報共有に努めている。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	34	1			・半期ごとに定期的な面談の他、別途、相談を受けた際には都度行っている。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	35				・日々のこどもの様子をしっかりと感じ取り、変化に気づき、こどものやりたいことを実現できる支援を心がけている。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	28	4		3	・保護者会は一年に一度行われているが、兄弟向けのイベントが行われているかどうかは分からない。 ・兄弟支援はないと思う。	・年に1度、保護者会を実施し、学びの場を通して保護者同士の交流を行っている。今後は兄弟、父親向けの交流の場を検討していく。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	34			1		・相談の要望があった際には、都度、迅速に落ち着いて話ができるような環境を整えている。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	35					・送迎時に直接伝えたり、気付いた時にLINEを使って早期の情報共有を実施している。また必要に応じて連絡帳に内容を記載している。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	34			1		・LINE、インスタグラムを使用して日頃の活動の様子をお知らせしている。毎年、保護者評価の結果は法人ホームページで公表している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	35					・利用開始時に保護者へ個人情報の取り扱いについて説明し、同意書に署名を頂いている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	29	2		4		・各マニュアルは整備しており、定期的に訓練を実施している。 ・保護者への周知・説明については不足しているため、今後実施していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	30	1		4		・毎月、利用児、職員合同での避難訓練を実施している。今後はSNSを活用し、保護者様への周知を行っていく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	32	2		1		・事業所で設けている安全計画に沿って、安全の確保を実施している。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	32	1		2		・発生の都度、速やかに報告、連絡を行うように努めている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	33	1	1			・日頃から職員間で子どもの様子を注視し、小さな変化を見逃さないように努めている。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	31	3	1			・日頃から子どもの声を聞き逃さず、楽しみながらチャレンジし、達成感を味わえる経験を提供する支援を心掛けている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	35					・とても満足している。これからも親子共々引き続きお願いしたい。 ・保護者のニーズ、子どもの希望を踏まえた内容の支援ができるように、引き続き職員間で協力しながら実施していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後児童サービスセンターらいず		2026年 3月 2日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・人数や遊び方によって部屋や棟を使い分けている。 ・活動内容によっては、グループを分けて活動している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		・送迎時にらいうに残った児童の把握に、職員数が足りないと感じる事がある。 ・職員の配置に合わせて、利用児童の数を保護者に協力を仰ぎ、調整している。	・職員配置数についての説明を全職員に周知する機会を持つ。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・全体へのスケジュール提示、声や力の大きさ、物の置き場所や持ち物の把握などの視覚支援、個別のスケジュール提示をしている。 ・荷物置き場については、わかりにくさがあると感じる。	・音楽棟（別棟）に関しては、それほど意識していなかった、改善の余地があるように思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・音楽棟（別棟）の掃除ができていない事がある。 ・清潔に片付けが出来た状態で児童の受け入れを意識している。	別棟については、定期的に清掃するよう、計画表に入れる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・宿題をする時、大きな音が苦手な時、体調不良の時などに個室を使えるようにしている。 ・こどもと1対1で話をする必要があるときには、誰もいない部屋で行うようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		・時間給職員の参加が難しい場合がある。 ・全体会議などで改善の提案をし、その後の進捗なども確認し意見を求める場がある。	・全体会議で議題のする機会を増やし、業務改善への意識を高める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・評価表での意見を職員間で共有している。 ・会議で結果を共有し、業務改善案に取り入れている。	・内容を知る機会はあるが、業務改善に繋がられているとは言えない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・ミーティングや会議などの場で、その都度気になった事や意見を聞いている。 ・年に2回、全職員が施設長と面談し、意見や疑問を聞く機会を作っている。	・何気ない会話の中にも業務に生かせるものが潜んでいると思うので、そういった会話をより増やすべきである。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	・第三者評価は行っていない。	・第三者による評価について、職員間で今一度周知をする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・年数や役職に応じた研修を受けている。 ・適宜必要な研修には勤務体制を考慮しながら参加している。	・受講した内容を会議で報告する機会があるが、それを現場で生かすための具体的な話をする時間は取れていないように思う。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		昨年度、内容は全体会議で話し合い、公表した。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	1	・支援計画作成のための面談を行い、保護者の意向を聞き取りしている。 ・アセスメントは支援計画調整会議などで振り返りは行っている。	・こどものニーズの聞き取りと、アセスメントの更新が不十分である。 ・作成された内容について、契約職員は共有する機会がない。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・ケース担当と児発管が支援計画作成の面談を行い、保護者と話をした上で支援計画を作成している。作成会議にはケース担当以外の職員も参加し、意見をもらっている。	・契約職員が参加できる時間に開催することが出来ない為、結果を一覧にまとめ、全体会議で周知している。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・支援計画一覧を配布している。月間予定は支援計画の支援内容を実施しやすい活動を考えて計画している。 ・児発管が支援計画一覧表を作成し、全体会議で共有し、全職員に配布している。	・日々の記録の際には支援計画実施内容を踏まえて実施している。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	・日々のミーティングでこどもの行動の変化、様子を共有しており、それにより支援方法を見直すなど随時行っている。	・アセスメントは入所時のものしか残っていない。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		・子どもの年齢に応じて、進路についてなど先を見据えた支援計画の内容を考えている。 ・地域支援・地域連携が、公共施設の利用や地域清掃にとどまってしまう。	・本人支援以外の項目について、全体への周知が弱い
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・月間予定は月ごとに担当を変えて素案をたてている。 ・月間予定をたてる際には各活動担当に聞き取りを行い、月間予定に反映している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・曜日によって内容が重ならないよう、活動担当を職員で振り分けることで、新しいアイデアなども取り入れた内容にしている。	・活動担当が何年も固定になっているので、担当を変更すると幅が広がると感じる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		・小集団での遊びを月に2回行い、他児と協力したり関わられる機会を作っている。 ・内容によっては全員参加やグループに分かれて活動を行うなど集団活動を行っている。 個別活動はあまり取り入れられていない。	・個別活動の実施が少ない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		・毎日ミーティングをしている。 ・時間給職員には、午後からミーティングを行い、その日の動きを共有している。 ・毎日のミーティングで当日の支援内容を確認している。出席できない職員については日報に記載して伝達する時間を設けている。	その日の活動担当を前月末には決めている為、活動時の役割分担などはミーティングで明確にしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	3	・送迎があり当日の共有を図る事が難しいが、気になる事や共有する事は次の日のミーティングで話している。 ・時間のある時を見て、気になるところの情報共有をしている。	翌日のミーティングで共有し、日報に記載の上、全職員に引き継いでいる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・支援計画に基づいた記録を取るよう心がけている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・半期に1回モニタリングを行い、評価を児発管を中心に複数人で確認を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		・4つの基本活動を踏まえた内容にて、活動内容を検討している。	
関係機	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	5		・全員参加の活動だけでなく、遊びを選択する機会を作っている。 ・活動内容を自由遊びと課題遊びの二択としており、来所後に自分の写真カードをどちらかに自分で貼り、自己選択の機会を設けている。	意思決定の機会を大切にし、本人の意思を尊重している。場合によっては必要性を説明し、変更してもらうこともある。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		・管理者、児発管、ケース担当が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	・学校や他事業所とは適宜情報交換を行い、参考にして支援に生かしている。	・保健、医療分野とは連携は事業所側からの働きかけはない。（発達検査の際に事業所での様子を記載して提出し、保護者を通して検査結果をもらう程度。）
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		・学校とは対象児の様子の聞き取りが主で、行事、下校時間などは保護者から情報を得ている。 ・利用児の担任教師との面談をし、情報交換を行っている。	・学校との情報共有はできていない所、できていない所があり、学校によって差がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		・支援で行き詰った時には児発での対応や子どもの様子を電話で伺い、職員間で共有した。	

関 や 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	2	・相談支援専門員から聞き取りがあれば答えているが、移行の会議などには参加していない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	・中核事業所とのこどもについての情報交換の機会を持っている。	・助言、研修を受ける機会はない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	・地域の公園や児童館を利用し、利用している地域の子どもとの交流は持っている。	・事業所発信による交流・活動の機会がもてていない。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5		・管理者、児発管が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・送迎時や面談時に話を伺っている。特に気になる事例については直接電話などで伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		・地域で開催される研修案内などをLINEで送付している。 ・年に1度保護者会を開催し、設定したテーマについて外部講師を呼び、学びの機会とするとともに、保護者同志の交流の場を提供している。	・玄関先に研修のチラシなどを置くスペースを作り、積極的に発信していく。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		・利用開始時に適切に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・支援計画作成のための面談を実施し、保護者の意向は聞き取りしている。 ・家族の意向は年2回のモニタリングの面談で確認している。こどもの意向については、改めて聞く時間は設けていないが、日ごろの支援の中での声を聞き逃さないように、サービス提供に生かしている。	・こどもの意向の聞き取りが出来ておらず、日常の会話の中から把握している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		・面談の際に説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・年2回の定期的な面談時だけでなく、日常のこどもの様子の変化などから、面談や状況共有を行い、必要な支援内容を相談している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	・定期的に保護者会を開催し、保護者同士の繋がり場の場を提供している。	・兄弟同士の交流は実施していない。 ・保護者会は年に一回行っているが、その他の機会はない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・苦情受付体制については、利用開始時に説明している。 ・第三者委員を設置し、定期的に報告、助言をもらっている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		・インスタグラムを更新し活動の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・常に意識して取り扱いには留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・発語が難しい子どもには絵カードを使い、意思確認ができるよう配慮している。 ・視覚的情報の提示や外国人の保護者へは音声通訳アプリを使って報告を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	・地域清掃、地元のお店を利用する等を通じ地域に根ざした活動を行っている。	・地域の方を巻き込む行事は実施しておらず、地域住民との交流の機会を持つことは今後の課題である。
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	・マニュアルの策定はしており、職員には周知している。	・様々な内容の発生を想定した訓練は網羅出来ていない。 ・なかなかマニュアルに目を通す機会がない。 ・家族に周知は実施していない。	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		・毎月地震、火災についての避難訓練、学習を実施している。	・実情に近い不審者対応などを実施する必要があると思う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		・個人カードやアセスメントシートで確認している。 ・変更があった場合は教えて頂くよう保護者をお願いしている。	・対象児の保護者から情報提供が希薄なため、把握しきれないものがある。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	・アレルギーがある児童は一覧を作成し、キッチンとおやつ箱に貼り、調理やおやつの際に提供しないよう注意している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		・計画に沿って年間の研修、訓練を実施している。	・定期的な計画の見直しが出来ていない。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	3	・安全計画は策定し、実施している。	・家族への周知が不足している。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	2	ミーティングで日報に記載して共有している。	・書式はあるが活用できていない。 ・ヒヤリハットを文書化できておらず、共有できていない。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・虐待防止の担当職員が研修に参加し、会議で研修内容を共有している。 ・チェックシートを作成し、職員が自身の支援について振り返る機会を作っている。	・具体的に事例などについて検討する機会も必要だと感じる。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		・利用開始時にやむを得ない身体拘束についての説明を行い、保護者の同意を得ている。	・身体拘束をしなくもよい支援についても、合わせて検討する必要がある。